

令和6年度 第1回 図書館協議会 会議録

1 日時

令和6年7月4日（木）午後2時30分～午後4時00分

2 場所

ラトブ4階 いわき総合図書館学習室

3 出席者

(1) 委員

委員長 小野 順一

副委員長 柳田 明美

委員 渡部 純子、塩 陽子、草野 祐香利、吉村 忠晴、有賀 史人、

長岡 智子、青山 岳志

（欠席者）柴田 達八

(2) 事務局

ア いわき総合図書館

矢吹館長、黒羽副館長、秋山副館長、佐藤主任主査、片寄主任主査、
小林主任主査、桑原総務管理係長、横田情報資料係長

イ 地区図書館

小名浜図書館長、勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館副館長、
四倉図書館長

4 委員長、副委員長の選出

5 議事

(1) 案件

ア 新型コロナウイルス感染症対策への対応について

イ 令和5年度図書館運営実績等について

（ア）実績統計

（イ）事業実施報告

ウ 令和6年度図書館運営方針等について

（ア）運営方針及び主要事業

（イ）事業計画

（ウ）移動図書館運行計画

－ 会議内容 （司会進行：黒羽副館長） －

1 開会

（委員 10 名 9 名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第 4 条第 1 項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。）

2 委嘱状交付

委員の補充に伴い、渡部純子委員に対し委嘱状の交付を行った。

3 いわき総合図書館長あいさつ 館長

4 図書館協議会の概要

事務局より、会議資料 2～3 頁に基づき説明した。（総務管理係長）

5 委員長、副委員長の選出

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 2 項の規定による委員の互選により、委員長に小野順一委員、副委員長に柳田明美委員が選出された。

6 議事

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 3 項の規定により、小野委員長が議長となり、会議を進行した。

(1) 案件

ア 新型コロナウイルス感染症対策への対応について

事務局より、会議資料 5 頁に基づき説明した。（総務管理係長）

イ 令和 5 年度図書館運営実績等について

(ア) 実績統計

事務局より、会議資料 6～12 頁に基づき説明した。（総務管理係長）

(イ) 事業実施報告

事務局より、会議資料 13～21 頁に基づき説明した。（情報資料係長）

(意見、質疑応答)

草 野 委 員：実績統計で年代別、時間帯別などが分かれば教えてほしい。

事務局：年代別の貸出冊数については、毎年発行している『いわき市の図書館』のなかで実績を公表している。傾向としては60代、70代の利用が多く、次いで40代の貸出しが多いようだ。また、総合図書館の来館者数においては、夏場に来館者数が増加する傾向がみられ、七夕まつりやいわきおどりなどのイベントが開催される8月が特に多くなっている。

渡部委員：学校司書研修での電子図書館操作研修について、実際にパソコン等で実演しながらの研修なのか？

事務局：この時はパワーポイントでの概要説明だったが、出前講座で学校に向いた際は、実演をしながら、子どもたちも一緒にタブレットで操作してもらっている。

小野委員長：企画展などの展示について、いつも興味深く見ている。内容もよく考えられており、図書館の利用促進のためにもがんばってほしい。

ひとつ質問だが、最近のセルフ貸出機の利用状況について、教えてほしい。

事務局：セルフ貸出機とカウンターでの貸出し、どちらか一方が多い状況にはなっていないが、次回までに実績等調べて報告したい。

柳田副委員長：団体カードの利用はカウンターのみとなっていることも、セルフ貸出機の利用が増えない一因かと思う。

ウ 令和6年度図書館運営方針等について

(ア) 運営方針及び主要事業

事務局より、会議資料22～25頁に基づき説明した。(秋山副館長)

(イ) 事業計画

事務局より、会議資料26～31頁に基づき説明した。(情報資料係長)

(ウ) 移動図書館運行計画

事務局より、会議資料32～33頁に基づき説明した。(片寄主任主査)

(意見、質疑応答)

青山委員：レファレンスは、どのような内容の質問が寄せられるのか？

事務局：「本の場所が知りたい」といった簡単なものから、地名由来など調査に数日を要するものまで幅広く受け付けている。

柳田副委員長：会議資料 24 頁の「令和 6 年度主要事業⑩ 図書館ネットワーク体制の充実」にある、「ア 近隣市町村」とはどこまでを指すのか。

事務局：相互貸借サービスを想定しているため、北日本地区あたりになる。

柳田副委員長：相互貸借サービスを利用して、近隣市町村から大型絵本を借りることも可能なのか？

事務局：ゆうパック等で送ることができないサイズであること、配送時に破損の恐れがあることなどから、これまで大型絵本は借り受けたことがないと思われる。

小野委員長：不登校対策の一環として、4 月から学習支援ルームの活用が始まったが、利用状況について教えてほしい。

事務局：総合教育センターに確認したところ、若干名の児童生徒が利用しているが、断続的な利用となっているようだ。保護者からの問い合わせや親子での見学などもあるようだ。

小野委員長：先日、学習支援ルームを見学したが、ガラス張りで見えるため利用しにくい印象を受けた。今後の利用を考えるうえで、何らかの工夫が必要であると感じた。

事務局：特別な場所ではなく、小・中学生なら誰でも利用できる場所として、当面現状のまま運用しながら、改善できるところは改善していきたい。不登校の児童生徒だけではなく、これまで通り小・中学生の読書や学習の場としても利用してもらいたい。

※ 委員長より、せっかくの機会であることから、各委員から意見を伺いたい旨の発言があった。

渡部委員：学校ではタブレット端末の普及に伴い、紙での資料提供の考え方が変わってきている。電子図書館の利活用も含めて勉強していきたい。

塩委員：市立図書館でこれほど多くの事業を行っていることに驚いている。

また、社会教育委員として関わった本『まほろばの里 高久の歩き方』が、「かもまる通信」84 号で紹介されているので、ぜひご覧いただきたい。

草野委員：子どもの読書活動推進についても、計画に基づいて推進していることが分かった。一方で、これほど多くの事業を抱え、職員数は充足しているのか。ボランティア等を活用することも必要なのではないか。

吉村委員：多岐に渡る企画、ご苦労だと思う。高専図書館でも様々な企画を行っているが、最近の学生は1冊の本を読むということが出来ていないので、こういった取組みを続けてほしい。

有賀委員：最近、カスタマーハラスメントが話題になっているが、図書館でも、今後そういった対策が必要になるのではないかと感じている。

長岡委員：音訳ボランティアをしており、図書館から録音図書の製作依頼などもある。最近では、地域資料など地元の情報を録音図書にすることも増えている。図書館事業では、音訳や録音図書校正などの研修も企画していただき、感謝している。今後も協力していきたい。

青山委員：先日、北茨城市立図書館に行く機会があった。館内にはカフェがあり、カフェと雑誌コーナーでは会話ができるようになっていた。館内には、子どもや読み聞かせの声も聞こえ、心地よいものだった。閲覧席の配置も工夫されており、また行きたいと思える図書館だった。

柳田副委員長：総合図書館も居心地がよく、新聞などの資料もとても充実しており、とても使いやすい図書館だと感じている。

小野委員長：委員の皆さまには貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ここで議長の職を解かせていただきたいと思います。

7 その他

事務局より、次回開催予定（11月）について事務連絡を行った。

8 閉会